

南水の満開時点では概ね昨年並みの状況です。開花期間前後に低温被害にあった園では、結実状況やサビ等を良く確認し、予備摘果等の管理作業に入りましょう。また、今後の気温が低めで推移し、雨が続く場合は、病気の感染に好適となるので、定期散布は前倒しで進めるようにしてください。5 月初旬からケムシ類・アブラムシ類の発生が見られます。生育期の散布量は常に多めに設定し、死角ができないように注意しましょう！



◆ 和梨の定期防除（収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。）

☆ 5 月中旬の薬剤散布（前回から 10～12 日後）

前回に引き続き、黒斑病、黒点病、赤星病、アブラムシ類、カイガラムシ類の防除期となります。

予防散布を基本としていますので遅れないようにしましょう。

散布時期：5/15～20 頃（左記は目安となります。雨が続けている場合は前倒しで散布しましょう！）

散布薬剤 ＊注意事項①参照

水	1 0 0 リットル
展着剤	2 0 ml
トレノックスフロアブル	2 0 0 ml（30 日前、5 回）
ハチハチフロアブル	5 0 ml（14 日前、2 回） ＊注意事項②参照

対象病害虫：黒斑病、黒星病、赤星病

アブラムシ類、クワコナカイガラムシ

散布量：10 a 当り 350 リットル

～ 注意事項 ～ ＊必ずお読みください。

- ① 訪花昆虫が放飼されていますので、指定薬剤及び時期を厳守してください。
- ② 前年度、カイガラムシ類が発生した園は、アプロードフロアブル 1000 倍（30 日前、2 回）を加用する。
- ③ 不明な点・詳細については、営農センターまでお問い合わせください。

◆ 散布日： 月 日

◆ 散布量： リットル

☆ 5 月下旬の薬剤散布（前回より 10～12 日後）

前回に引き続き、黒斑病、黒点病、シンクイムシ類、アブラムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類の防除期となります。

散布時期：5/25～30 頃（左記は目安となります。雨が続けている場合は前倒しで散布しましょう！）

散布薬剤

水	1 0 0 リットル
展着剤	2 0 ml
ダズバン D F	3 3 g（21 日前、3 回） ＊注意事項①参照
アントラコール顆粒水和剤	2 0 0 g（45 日前、4 回）

対象病害虫：黒斑病、黒星病、赤星病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ

散布量：10 a 当り 350 リットル

～ 注意事項 ～ ＊必ずお読みください。

- ① アブラムシ類の発生園はバリアード顆粒水和剤 4,000 倍（前日、3 回）を加用すること。
- ② 葉色が薄い場合や黄化が見られる園は、ビクマグの 1,000 倍を今回から 3 回程度連続して加用する。
- ③ 不明な点・詳細については、営農センターまでお問い合わせください。

◆ 散布日： 月 日

◆ 散布量： リットル

◆ 西洋梨の定期防除は裏面をご覧ください。

◆ **西洋梨の定期防除** (収穫前や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。)

田麦沖のラ・フランスの満開は、概ね作並みの状況です。引き続き、輪紋病の重要防除期間です。予防散布を基本としていますので、雨が続く前に薬剤散布を完了しましょう。また、開花後からケムシ類・アブラムシ類の発生が目立つ場合は、予定より早めに薬剤散布を実施するようにしましょう。

◆ 年度別ラフランス生育調査（調査地点：田麦）

	平年	H25	H26
満開	4/30	4/30	5/1

✧ 5月下旬の薬剤散布（前回より約12日後）

散布時期	5/18～22（左記は目安となります。）	◆ 散布日：月 日
散布薬剤	水 1 0 0 ℓ 当り 展着剤 1 0 mℓ ジマンダイセン水和剤 2 0 0 g（30 日前、5 回） スミチオン水和剤 4 0 1 0 0 g（14 日前、6 回） *注意事項②、③参照	◆ 散布量：リットル
対象病虫害	輪紋病、黒斑病、黒星病 ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、アブラムシ類、カメムシ類、（ケムシ類）	
散布量	10 アール当り：400 リットル	
注意事項	① カイガラムシ類の発生園は、アプロードフロアブル 1,000 倍（30 日前、2 回）を加用する。 ② 前回散布後にアブラムシ類の発生が見られる園は、ウララ D F 2000 倍（14 日前、2 回）を加用散布する。	

◇ 結実後（5月中下旬）の重点作業

1. 予備摘果（満開後 30 日以内に実施しましょう！）



- ◆ まずは1果そう1果とする。
- ◆ 5月末を目安に終了する。
- ◆ オーロラは結実確認後に実施する。
- ◆ 弱い果そうは摘果する。花芽が少ない場合は、弱い果そうも利用し着果量を確保してください。
- ◆ 残す果実は大きく長手をひき、軸は太く長いものを残す。
- ◆ 目標とする果実は18～20玉中心です。昨年肥大不良であった園地は、早めに予備摘果を進めるようにしましょう！

- ## 2. 主枝・側枝誘引（積極的に実施しましょう！）

- ◆ わい性台樹・・・次年度の花芽着生促進と側枝を太らせないために必ず実施しましょう。

- ◆ 普通樹 ……主枝の誘引。オーロラは45度、ラ・フランスは30度に誘引する。

- ### 3. 土壤水分管理・葉面散布

- ◆ 結実後の土壌の乾燥は果実肥大に大きく影響します。結実後に雨が少ない場合は定期的なかん水を実施すると初期肥大（細胞分裂）が促進されます。また、葉色が薄い場合は、苦土成分入りの葉面散布資材等を散布しましょう！

- #### 4. 追肥の施用（結実確定後）

- ◆ プレシャス有機を樹勢や着果量に応じて 10 a 当り 1~2 袋を目安に施用する。